

## ◆ 自己血小委員会の活動について

### ◆ 血液型確定に関する輸血検査等について

#### ◆ 第5回埼玉輸血フォーラムのお知らせ

## 自己血小委員会の活動について

埼玉協同病院 村上 純子 平成24年度埼玉県合同輸血療法委員会報告書より

### 【はじめに】

近年の輸血医療でのキーワードがいくつかある。そのひとつである少子高齢化と献血者の減少というのは、すでに現実になっており、適正使用と同時に自己血を推進していくことは、この先の輸血事業を円滑に進めていくために、非常に重要なことだと考える。当初言われた同種血の副作用や合併症を回避するという目的のほかに、我が国の輸血医療全体を支えるという意味でも、自己血の重要性は非常に高まっている。

本邦における自己血輸血は総赤血球輸血の6%~7%を占めている。このような現状を踏まえ、埼玉県合同輸血療法委員会では、自己血輸血の推進と安全性および品質の向上を目指して、昨年より自己血輸血小委員会を設置して活動を開始した。

自己血輸血小委員会活動が目指すものは、①自己血輸血の推進、②適正で安全な自己血輸血の実践と管理体制についての検討、③自己血輸血関連技術に関する情報交換および調査である。実際の活動では、③の現場のスキルアップと各施設に委ねられている自己血輸血を、少しでも県内で統一していく方向に進めていくために情報交換および調査を特に重視していきたいと考えている。

### 【自己血輸血の現状】

埼玉県の現状をみると、積極的に自己血輸血を推進しているところと、そうではないところとの二極化が生じている印象を受ける。また、自己血の採血は各診療科に委ねられていて、輸血専門医/自己血輸血責任医師の管理下で実施されている施設は一部に留まる。マニュアル整備は約90%の施設で整ったが、実施が各科に委ねられている以上、その遵守状況を正確に把握する体制が整備されているとは言い難い。

### 【第1回埼玉自己血輸血研修会】

昨年、第1回埼玉自己血輸血研修会を開催した。この研修会は、自己血輸血学会認定の第16回自己血輸血看護師制度協議会指定セミナーとして認められた。ワークショップでは、各施設での自己血輸血の現状について4施設から報告いただいた。教育講演として、松田母子クリニックの松田秀雄先

生に「産科診療における自己血の重要性とその将来」、特別講演として帝京大学医学部整形外科の脇本信博先生に「貯血式自己血輸血のあり方とその実際」-Q&Aを中心として-についてご講演いただいた。この研修会は、今年も10月に開催された。

### 【自己血輸血勉強会（意見交換会）】

自己血輸血小委員会では、医療施設を訪問し、自己血採血や管理の実際を拝見した後に、現場のスタッフからの質問を受け、意見交換をする「自己血輸血勉強会&意見交換会」を計画している。この会は、埼玉県内の各施設における自己血輸血のレベルアップを目的としており査察ではない。

### 自己血輸血を実施するにあたって、困った事を一緒に解決しませんか？



#### （輸血療法の実施に関する指針）

自己血輸血は院内での実施管理体制が適正に確立している場合は、同種血輸血の副作用を回避し得る最も安全な輸血療法であり、待機的手術患者における輸血療法として積極的に推進することが求められている。

- 埼玉県下では、輸血部門の一括管理下で自己血採血が実施できているのは限られた施設です
- 各施設ごとのルールで行われているのが現状です
- 各施設の困ったこと・判断出来ない事例の意見交換会を実施し、皆様と一緒に解決方法を探す活動を計画中です

### こんな場合はどうしますか？



- 400mlバックで採血したが200mlしか採血出来なかった。輸血可能か？
- 30分かけて400ml採血をしたが輸血可能か？
- 寒冷凝集素価が高い患者からの採血注意点は？
- 自己血専用冷蔵庫を購入できない！
- 自己血使用時の交差適合試験は？
- 自己血輸血時に発熱・発疹等の副作用が発生！

### こんな問題点を一緒に考え解決策を探ります

施設のご要望にあわせて埼玉県合同輸血療法委員会のメンバーが伺います（無償）ので、ご希望の施設は血液センター学術課にお問い合わせください。

## 血液型確定に関する輸血検査等について

メディカルトピア草加病院 濱田昇一

### 【輸血業務検討小委員会報告】

輸血業務検討小委員会では、平成22年に中小規模施設(上位30施設を除く)赤血球を年間50単位以上使用している施設に対し血液型検査・不規則抗体検査の現状についてアンケート調査を実施した。その結果の一つに「輸血目的の血液型検査の場合、異なる時点の2検体による結果で確定していますか」との問いに対し、35.5%(32/90)が「していない」あるいは「ほとんどしていない」という回答であった。また、2010年(平成22年)輸血業務・輸血製剤年間使用量に関する総合調査(埼玉県分)の結果においても45.3%(68/150)が「行っていない」との回答であった。

輸血療法のガイドラインである「輸血療法の実施に関する指針」(厚労省)によると、血液型確定は、同一患者の二重チェック・同一検体の二重チェックと記載され、異なる時点での2検体による血液型検査という趣旨の記述が5回も書かれている。(図1)このことから異なる時点での2検体による血液型検査は不可欠である。

図1

### 血液型確定とは 輸血療法の実施に関する指針

- 同一患者の二重チェック
- 同一検体の二重チェック

「同一患者からの異なる時点での2検体で血液型検査を行う」と5ヵ所に記述されている

- IV-1-2) 同一患者の二重チェック
- V-1-2) 交差適合試験 (1) 患者検体採取
- V-1-2) 交差適合試験 (4) コンピュータクロスマッチ
- V-5-2) 別検体によるダブルチェック
- V-6-1) 血液型検査用検体の採取時の取り違いに注意すること

我々は、アンケートで「同一患者の二重チェック」が将来的にも困難であると回答した施設に電話取材を行った。

その主な回答は

- ① 別採血による確定が必要であることは認識しているが施設内で同意が得られない。
- ② 理由の如何を問わず、初回血液型と交差適合試験用検体が同時に提出される。
- ③ 輸血が必要でない患者に対しても別採血による確定が必要であるという誤解がある。

というものであった。

輸血業務検討小委員会では、今後「同一患者の二重チェック」を実施するにあたり、血液型確定の4つの重要事項をまとめたので参考にして頂きたいと思います。

- ① 血液型確定のための別採血は、異なる時点であれば「血液型用検体」でも「交差試験用検体」でも良い
- ② 輸血を目的としない場合は、別採血までして血液型を

確定しなくても良い

- ③ 血液型の検査は、交差試験の検体でも行う。これはいわゆる「別採血」であることが条件になります。
- ④ 自施設で以前に血液型検査が実施されていれば時間的間隔があっても別採血による血液型照合の対象となる。

## 第5回埼玉輸血フォーラムのお知らせ

今年度も当委員会活動の全体会として、埼玉輸血フォーラムを開催します。内容は、委員会活動報告の他、輸血業務にかかわる看護師が、医師や検査技師とどのように連携して安全な輸血を行っているかなど、その役割から一連の輸血全体を考えられる内容としました。また、特別講演では、日本輸血・細胞治療学会から発刊されている「安全な輸血療法ガイド」について藤井康彦先生にわかりやすくお話しいただく予定です。

【日時】平成26年2月1日(土) 13:30~17:05  
(13:00受付開始)

【場所】大宮ソニックシティ 小ホール

【講演】

### ◆埼玉県合同輸血療法委員会報告および小委員会報告

#### 1. 輸血業務検討小委員会報告

- ①医療機関と血液センターとの連携強化  
岡本直子先生 さいたま赤十字病院 検査部
- ②血液型確定に関する輸血検査等についてⅡ  
伊丹直人先生 埼玉県立がんセンター検査技術部
- ③血小板輸血の意識調査報告  
石上園子先生 越谷市立病院 臨床検査科

#### 2. 自己血輸血小委員会報告

- ④自己血輸血小委員会の報告  
池淵研二先生 埼玉医科大学国際医療センター  
輸血・細胞移植部

#### 3. 埼玉県合同輸血療法委員会調査報告

- ⑤県内主要施設における大量の輸血例のフィブリノーゲン値調査  
大久保光夫先生 埼玉医科大学総合医療センター  
輸血・細胞治療部

### ◆輸血業務にかかわる看護師の役割

- ①学会認定・臨床輸血看護師の役割  
丸山始美先生 防衛医科大学校病院 看護部
- ②学会認定・自己血輸血看護師の役割  
相馬真理先生 新座志木中央総合病院 看護部

### ◆特別講演

安全な輸血療法ガイド

藤井康彦先生 山口大学医学部付属病院 輸血部

《発行》 埼玉県合同輸血療法委員会  
《お問い合わせ》 埼玉県合同輸血療法委員会事務局  
埼玉県赤十字血液センター学術課  
Tel: 042-985-6243